

感染性胃腸炎の集団発生について

西区内の保育施設で、複数の園児が嘔吐、下痢等の症状を呈しているとの報告があり、行政による検査の結果、アストロウイルスが検出された。

1 西区内の保育施設

(1) 経緯

- 10月5日(土) 5名の園児に下痢の症状が出現。以降、複数名の園児に嘔吐、下痢、発熱などの症状が出現。
10月8日(火) 当該施設より、嘔吐、下痢等の症状を呈している園児が10名以上いると報告があった。福岡市保健所が有症状者の発生状況を確認し、感染拡大防止及び患者等の健康観察の実施を指導した。
10月9日(水) 行政検査の結果、2名の園児からアストロウイルスが検出された。

(2) 有症状者の区分 ※()内の数は、有症状者のうち、アストロウイルスが検出された人数

園児	性別	0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		計	
	男	1	(1)	3	(0)	3	(0)	1	(0)	1	(0)	0	(0)	9	(1)
	女	1	(1)	4	(0)	3	(0)	0	(0)	1	(0)	0	(0)	9	(1)
	計	2	(2)	7	(0)	6	(0)	1	(0)	2	(0)	0	(0)	18	(2)

(3) 有症状者の発症状況

月日	10/5	10/6	10/7	10/8	10/9	10/10
人数	5	1	5	5	2	0

(4) 症状

嘔吐、下痢、発熱 ※重症者はなく、全員快方に向かっている。

(5) 行政対応

- 施設への感染予防及び拡大防止のための指導を実施。
- 園児及び家族、職員の健康調査及び健康観察を実施するよう施設へ指導。

【お願い】 患者及び家族等のプライバシー保護については、特段のご配慮をいただきますようお願いいたします。

アストロウイルスによる感染性胃腸炎とは

【感染経路】

- ・アストロウイルスに汚染された二枚貝などを生あるいは不十分な加熱で食べるなどにより、感染する。
- ・アストロウイルスに感染した者のふん便や吐物の不適切な処理により、手指等を介して二次感染を引き起こす。

【症状】

- ・下痢、吐き気、嘔吐、腹痛、発熱

【予防方法】

- ・調理をする時、トイレの後や食事の前にはよく手を洗うこと。
- ・手洗いの後、使用するタオル等は清潔なものを使用すること。
- ・調理台や調理器具は、60℃、10分間の加熱または次亜塩素酸ナトリウム（塩素系漂白剤）による消毒が有効。

【アストロウイルスとノロウイルスの違いについて】

- ・アストロウイルスもノロウイルスも感染性胃腸炎の原因となるウイルスである。
- ・アストロウイルスは主に乳幼児に感染性胃腸炎を引き起こすウイルスとして知られており、その症状はノロウイルスと同様であるが、症状は一般に軽症で嘔吐や発熱が少ないとされる。
- ・特徴などの詳細は以下の通り。

		アストロウイルス	ノロウイルス
特徴	科名	アストロウイルス科	カリシウイルス科
	大きさ	直径約 30nm	直径約 38nm
	形状	球形	球形
	感染経路	経口感染	経口感染
	潜伏期間	1～4 日間	12～48 時間
	主症状	下痢、腹痛、吐き気、嘔吐	下痢、嘔吐、発熱
	有症状期間	概ね 4～5 日以内	概ね 3 日以内
	症状消失後	1～2 週間ほどウイルスが便中に排出されるため、二次感染に注意が必要	1～2 週間ほどウイルスが便中に排出されるため、二次感染に注意が必要